

2024年6月下旬 発売予定

内藤礼 わたしは生きた

執筆：内藤礼、小池一子 写真：畠山直哉 デザイン：木村稔将
A5判/48ページ/ハードカバー 定価：本体2800円(税別)

東京のまちを中心に、2021年に開催された「東京ビエンナーレ 2020/2021」。総合ディレクター・小池一子から出た言葉「東京に祈る」に呼応するように、内藤礼の作品「わたしは生きた」は制作されました。1945年3月10日、東京大空襲により10万人を超える死者を出した東京都心東部エリアで、内藤は今なお残る戦争の記憶や痕跡をたどり、蔵前にある長応院境内のギャラリー・空蓮房に小さな人型の彫刻「ひと」を置き、墓地の慰霊碑に水を捧げました。また戦火の中、子供たちが避難し、現在も現役の小学校内にある地下防空壕にも「ひと」を配することで、周辺地域の持つ戦時の記憶を浮かび上がらせ、過去の鎮魂と未来へと捧げる、祈りの空間をつくりだしました。

暗闇の中、光のある方に身体をむける「ひと」。2011年に初めて制作された「ひと」は、わたしとあなた、生と死、内と外、過去と現在、そこにあるすべてを内包しながら静かに佇む者。「ひと」の前で人は、さまざまなことを思い、またさまざまな感情が喚起されることでしょう。本書は、どのようなことがあっても、人は亡くなるその瞬間まで生きたのだ、と信じ「わたしは生きた」と題された本作を、畠山直哉の写真と小池一子のテキストにより書籍化したものです。当時、会場は完全予約制、一部非公開であったため、作品の全貌が明らかになるのは初めてとなります。



展覧会情報

内藤礼「生まれておいで 生きておいで」
会場：東京国立博物館 平成館企画展示室 ほか
会期：2024年6月25日 - 9月23日

2024年8月下旬、小社より公式図録刊行予定！

内藤礼©1961年広島生まれ。美術家。

主な個展に「地上にひとつの場所を」佐賀町エキジビット・スペース（東京、1991年）、「地上にひとつの場所を」第47回ヴェネチア・ビエンナーレ日本館（1997年）、「Being Called」カルメル会修道院（フランクフルト、企画：フランクフルト近代美術館、1997年）、「すべて動物は、世界の内にちょうど水の中に水があるように存在している」神奈川県立近代美術館 鎌倉（2009年）、「信の感情」東京都庭園美術館（2014年）、「信の感情」パリ日本文化会館（2017年）、「Two Lives」テルアビブ美術館（2017年）、「明るい地上には あなたの姿が見える」水戸芸術館現代美術ギャラリー（2018年）、「うつしあう創造」金沢21世紀美術館（2020年）、「breath」ミュンヘン州立版画素描館（2023年）。パーマメント作品に、「このことを」家プロジェクト きんざ、直島（香川、2001年）、「母型」豊島美術館（香川、2010年）。

▶ご注文はツバメ出版流通まで FAX: 03-3721-1922

mail:info@tsubamebook.com
TEL:03-6715-6121 http://tsubamebook.com

貴店名(番線印)	HeHe	www.hehepress.com mail: info@hehepress.com	返品条件付注文扱い 返品了解：ツバメ出版流通 川人
	注文数	内藤礼 わたしは生きた	ISBN978-4-908062-59-9 C0070 定価：本体2800円(税別)
		既刊 内藤礼 OKU (3刷)	ISBN978-4-908062-04-9 C0070 定価：本体1800円(税別)
び担当:	様	既刊 内藤礼 うつしあう創造	ISBN978-4-908062-31-5 C0070 定価：本体5800円(税別)